



著者プロフィール

篠崎央子（しのざき・ひさこ）

昭和50年 茨城県生まれ
平成14年 「未来図」 入会
平成17年 朝日俳句新人賞奨励賞受賞
平成18年 未来図新人賞受賞
平成19年 「未来図」 同人
平成30年 未来図賞受賞

共著『超新撰21』（平成22年）
俳人協会会員
「未来図」編集同人

〈句集『火の貌』より転載〉
〈2020年1月時点〉

『火の貌』（自選15句）

篠崎 央子

血族の村しづかなり花胡瓜
洗面器の底に西瓜の種一つ
狐火の目撃者みな老いにけり
東京の空を重しと烏帰る
血の足らぬ日なり椿を見に行かむ
栗虫を太らせ借家暮らしかな
森に入るやうに本屋へ雪催
浅瀬汁星の触れ合ふ音立てて
うなづくも撫づるも介護ちる鳴く
残雪や鱗を持たぬ身の渇き
筑波嶺の夏蚕ほのかに海の色
黒葡萄ぶつかりながら生きてをり
倭の國は葦の小舟や台風圏
縄文のピーナスに臍山眠る
火の貌のにはとりの鳴く淑気かな